

ねっとわーく水沢

<第98号>
編集・発行
事務局

2024年(令和6年)7月25日(木曜日)
水沢地区振興会内、水沢地区広報委員会
水沢公民館内

電話 758-3101 FAX 758-3102
E-mail : n.w.mizusawa@gmail.com

地区内世帯数・人口(6月末日現在)

1,801世帯 4,647人

(男2,284人 女2,363人)

前年同月比

世帯 -15世帯 人口 -133人



◆編集後記

「(株)のうランド」

・「水沢地区農業連絡協議会」

・おしらせ

◆馬場小学校閉校記念大運動会……2

◆水沢地区振興会……3～5

◆馬場小学校最後の大運動会……2

◆表紙 馬場小学校最後の大運動会……2

◆馬場小学校閉校記念大運動会……2

◆水沢地区振興会……3～5

目次

『馬場小学校閉校記念大運動会』

5月25日土曜日、今年度をもつて閉校となる馬場小学校の最後の大運動会が行われました。陽差しは強く天候に恵まれ、半袖とハーフズボン姿では少し肌寒いようでしたが、グラウンドでは、元気よく赤組と白組が応援する大きな声が響いていました。また上空では、2羽の鳶の声が鳴り響き、最後の大運動会で一生懸命駆け抜けている生徒たちを励ましているかのように飛んでいた。最後の大運動会、地元の大勢の方々が応援に来ていました。

応援団長は、赤組白組ともに女子生徒さんで、その2人に団長として今日の運動会で一番頑張りたいこと、また一番頑張りたい種目についてお聞きしました。

☆赤組応援団長 6年生 飯塚 咲妃

応援団の皆で考えたダンスや応援を笑顔でしつかり踊り、団長として最後まで一生懸命みんなを引っ張つていけるように頑張りたい。



☆白組応援団長 6年生 飯塚 心音

白組のみんなは、勝った時は、誉めたたえること。誉めたたえることでみんなの自信に繋がり、楽しい運動会になるよう頑張りたい。でも負けてしまった時は励ますこと、励ませば安心できるから。



一番頑張りたい種目は、赤組白組団長とともに競技の最後の種目全校リレーでした。

赤組も白組も毎日練習してきた応援やダンスを笑顔で披露する姿、団長が下級生たちに声を掛け、引っ張ついている姿、優勝を目指して磋琢磨する姿がとても素晴らしい、忘れることがない閉校記念大運動会となりました。





前会長
根津口
満敬子

【その他】発足から10年以上が過ぎ、参加者も年齢を重ね、最近は参加人数が減少傾向ですが、皆さんが喜んでくださるのできる限り続けていこうと思っています。毎月元気な方も本当に元気をもらっています。

【運営費等】 参加者からは毎回100円、食事会では300円を徴収するほか、伊達自治会と社会福祉協議会、地区振興会から助成金をいただいて運営しています。

【活動内容】 每月第一金曜日の午後から2時間程度、伊達公会堂で歌や踊りの鑑賞やレクリエーション、各種講座、食事会、季節の行事、カラオケなどを、ボランティアスタッフ6人を含め、約15人で実施しています。

【発足の経緯】 地元の高齢者を元気づけたいと、当時増えつた認知症予防の一環になればと、十日町市社会福祉協議会の役員であつた根津満男さんが初代会長となり、平成24年9月5日に発足しました。

水沢地区振興会 褒章 活動10年以上的伊達「まめだ会」

水沢地区振興会

振興会に携わり

副会長 富井 教雄

平成二十九年に水沢地区振興会の副会長に任命され、今年で4期8年目となります。ラストイヤーとなる本年度ですが、一年間頑張つて参りますのでよろしくお願ひいたします。

何をすればいいのかわからない1期目でしたが、産業建設委員長を任せられ、地域の要望箇所を少しでも多く解決しようと行政へ働きかけ、小工事についてはけつこう対応してもらうことができました。2期目頃から大地の芸術祭に関連し「越後水沢駅美観整備事業」を十日町市や新潟県の補助金申請を行い、川田振興会長と共に慶應大学の教授や学生達の知恵を借り、地元住民の多大なるご協力を得て3年間で無事に完成させることができました。地域住民手作りの公園として県内外の来訪者からも好評を頂いております。これからも知恵を絞り、汗を流して地域振興に役立ちたいと思っております。



令和5年度 水沢振興会 決算書						
(単位:円)						
		項目	当初予算	決算	比較増減	
収入	交付金	1. 基礎事業交付金	700,000	700,000	0	
		2. 自治協働事業交付金	4,506,000	4,506,000	0	
		3. 人件費相当分			0	
		小計	5,206,000	5,206,000	0	
自主財源	自主財源	1. 年度繰越金	1,335,447	1,335,447	0	
		2. 会費	2,600,000	2,608,000	8,000	
		3. 諸収入	858,553	1,487,635	629,082	
		小計	4,794,000	5,431,082	637,082	
収入合計			10,000,000	10,637,082	637,082	
支出						
事務局	事務局	項目	当初予算	決算	比較増減	
		1. 人件費	1,690,000	1,654,000	36,000	
		2. 一般経費	1,420,000	1,558,108	-138,108	
		事務局合計	3,110,000	3,212,108	-102,108	
総務文教	総務文教	1. 防災・交通安全事業	650,000	693,600	-43,600	
		2. 教育支援事業	540,000	540,000	0	
		3. 社会教育支援事業	670,000	670,000	0	
		4. 広報活動	670,000	670,000	0	
		総務文教合計	2,530,000	2,573,600	-43,600	
厚生環境	厚生環境	1. 社会福祉事業	1,947,000	1,773,000	174,000	
		2. 環境整備事業	314,500	314,000	500	
		3. まちづくり活動助成事業	320,000	320,000	0	
		4. 研修交流事業	70,000	70,000	0	
		厚生環境合計	2,651,500	2,477,000	174,500	
建設業	建設業	1. 地域活性化事業	717,000	905,150	-188,150	
		2. 要望促進費	95,000	46,920	48,080	
		産業建設合計	812,000	952,070	-140,070	
その他	その他	1. 前年度交付金清算金	100,000	100,000	0	
		2. 特別会計繰入金	250,000		250,000	
		3. 予備費	546,500	74,580	471,920	
		その他合計	896,500	174,580	721,920	
支出合計			10,000,000	9,389,358	610,642	

*** 水沢地区振興会 まちづくり活動事業 ***

魚 プロジェクト 2024主催
市ノ沢青集会

岩魚

虹鱒

いわな・にじます

取りほーだい!! バケツ必須



日 時 9月1日（日曜日）午前11:00～12:00

場 所 水沢市ノ沢地内 市ノ沢橋下（当間川）

料 金 大人 1000円（中学生以上）
(魚1グランプリ参加者は +000円)

子供 500円

幼児 無料（錦鯉つかみどりです 要保護者同伴）



手袋禁止



小雨決行



台風時中止



回あり



裸足禁止

大地の芸術祭コラボイベント

『魚1グランプリ2024』開催予定

”いちばんデカい魚を取った人が優勝”

参加費：別途 1～3位まで景品あり 参加者には粗品

☆☆～フードメニュー～☆☆

鮎の塩焼き、フランクフルト 売り切れ御免!!

ピール、ノンアルピール、お茶類、ジュース類

※河原でのケガ、駐車場でのトラブル等は自己責任になりますのでよろしくお願いします。



「水沢地区農業連絡協議会」「(株)のうランド」

水沢地区振興会産業建設常任委員会の地域活性化補助事業の一つである農業連絡協議会について、会長の飯塚信夫さんより、お話を聞かせて頂きました。

農業連絡協議会とはどんな組織で何を目的としているのか・・・平成24年から水沢地区の農業連携による農業振興を目的とした農業従事者の技術向上のための研修を行い、地場農産物の販売促進、特産品の宣伝広報、後継者の育成を行っている組織。

当初は50人ほどいた会員数も今は40人だという。年に一回水沢公民館文化祭で野菜の即売会も行っている。近年、地産地消にこだわり地元の学校給食の食材として使うことにも取り組んでいる。

また、米以外の栽培収入として昨年からさるなしの栽培にも力を入れ、期待をしている。

後継者の育成を行っているが、やはり高齢化や担い手不足が一番の問題であり、今後の大きな課題となっている。日本の農業の将来を考えると食糧危機まで発展してしまうのではないか、そうならないためには国の主食である米は、憲法で保障するぐらいの思い切った施策が必要だと思っています。

どこの農家さんも農業従事者の高齢化や担い手不足の問題を抱えている中、今年4月より農業大学校の新卒者を2人、高校生のアルバイトを一人採用し、若い従事者が増えている(株)のうランド代表である宮澤健太郎さんも、農業連絡協議会の会員である。その宮澤さんから話を聞かせて頂きました。

(株)のうランドさんは、3人の役員と11人の従業員とパートで

さんが従事しており、そのうち1人は農業大学の新卒の女性であります。次いで30歳の女性、そして20歳の男性を増員し、若い人材を育て、農業のいろんな事を少しづつ継承しながら世代交代を図っている。

また、地元の中学校の授業ではじやがいもの定植体験や収穫をして給食の食材として使っている。農作物の植え付けから、食すまでの一連の流れを体験することにより、地元の農作物のあり方や美味しさ、将来「農業」をやりたいというきっかけになればと期待しながら地産地消という視点からの取り組みにも力を入れている。

その他に法人化にする際は、地域振興局農業普及センターの紹介により「農福連携」(障がいのある人が農業に携わる)の事業を行っており、今年で4年目になるという。仕事内容は限られ、一律な仕事になることが多いが、特に田植え後の苗箱を洗う作業は、数が多いにも関わらずに丁寧に作業をしてくれるのでとても助かっている。

初めは、作業の説明を解り易く、きちんとつきりとした言葉で伝えるという簡単なよう



かぼちゃの芽摘み作業



難しい面も多々あつたが、3年目
4年目になると慣れて、一日に出
来る仕事量も増え、高効率に繋が
るようになつた。そして何より、
一律で量が多い仕事だけれど元
気よく作業してくれるので、お願
いしている私たちが、元気をもら
い、励まされとても良い関係性だ
と思つていますし、本当に助かっ
ています。

新卒者の女性が農業を目指し
た理由としては、一生懸命お世話
をして育てた野菜が実り、収穫し
た時の達成感がやる気に繋がつ
ていると話してくれました。

暑い中一生懸命かぼちゃの芽
摘みをしながら取材に応じてい
ただきまして有難うございました。
5500株あるかぼちゃの芽
摘み作業は、この広報誌が発行さ
れる時には終わっているのでし
ょうか・・・



苗箱洗い作業



編集後記

今回、馬場小学校閉校関連の記事を中心に発行させて頂きましたが、思い起こせば馬場小学校にまつわる思い出がたくさんあります。

中でも一番思い出深いのが、自分が小中学校生の頃に馬場小のグランドで毎年行われていた仮装大会でしょうか、もはや夏の風物詩になっていて、当時馬場小と言えば仮装大会のようなイメージだったような記憶があります。

あと、自分は水沢小学校でしたので、水沢小学校区内は自転車でどこへでも行って騒いで遊んでいましたが、馬場小学校区まではほぼほぼ行った事がなく、ましては珠川分校があるという事ですら小学校を卒業する頃まで、ほとんど知らない事実でした。

小5、小6時代の担任の先生が、我々の卒業と共に珠川分校に赴任されると聞いて「どこそれ？」と、初めて知ったくらいです。

今は仕事の関係で、ほぼ毎日珠川集落近辺まで行っている事を考えると、時代の流れを一層感じてしまいます。

馬場小卒業の皆さん、馬場、水沢、珠川の集落の皆さん、馬場小学校、珠川分校の思い出よ永遠に！

編集 HK